

## 水稲の生育状況と今後の管理対策（第5号）

令和5年7月11日  
新潟県農林水産部

### 〔7月10日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「並」の生育状況ですが、地域差が見られます。
- ◎ 新之助では指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数及び葉数の進み、葉色は「並」の生育状況ですが、地域差が見られます。

### 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月6日発表の1か月予報によると、向こう1か月（7/8～8/7）の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性があります。降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されています。
- ◎ 高温気象により、水稲の生育は平年より早まり、幼穂形成期および出穂期は平年より早まる見込みです。
- ◎ しばらくの間、梅雨空が続く見込みであることから、特にコシヒカリでは、草丈や葉色の変化に細心の注意が必要です。

### 〔今後の管理対策のポイント〕

#### コシヒカリ

- ◎ 穂肥<sup>\*1</sup>前は、土壌からの窒素供給を図るため、飽水管理<sup>\*2</sup>を継続してください。
- ◎ 出穂期は県全体の平均で平年よりやや早いと予想されますが、生育の地域差やほ場差が大きくなっていることから、生育診断を必ず行い、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、穂肥を適正に施用してください。
- ◎ コシヒカリは、早めに幼穂形成期を把握し、必ず生育診断を実施した上で、1回目の穂肥の施肥量と施肥時期を判断しましょう。

#### 新之助

- ◎ 中干しは遅くとも出穂期の1か月前をめどに終了し、終了後は、発根促進や根の活力維持のため、浅水の間断かん水<sup>\*3</sup>を行い、徐々に飽水管理へ移行してください。
- ◎ 葉色の低下に注意し、場合によっては早めの穂肥対応を検討してください。
- ◎ いもち病に感染しやすい気象条件が断続的に観測されています。新之助はいもち病に弱いので、ほ場で葉いもちの発生を注意深く観察し、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

\*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

\*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

\*3 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法のこと

### 早生品種

- ◎ 地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、出穂期 14 日前をめやすに 2 回目の穂肥を必ず施用してください。
- ◎ 特に多収性品種では、収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底するとともに、飽水管理を出穂期 25 日後まで継続してください
- ◎ 斑点米カメムシの多発地域や前年被害が多かったほ場では、出穂時期に留意し計画的な除草と防除を徹底してください。
- ◎ 多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

### 熱中症予防

- ◎ 蒸し暑い気象が続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日  
7月21日、26日、9月8日

## 〔補足資料〕

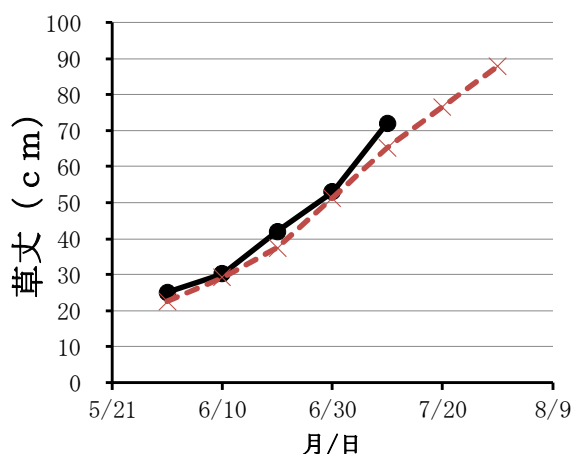
### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月10日現在）

#### コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「並」の状況です。

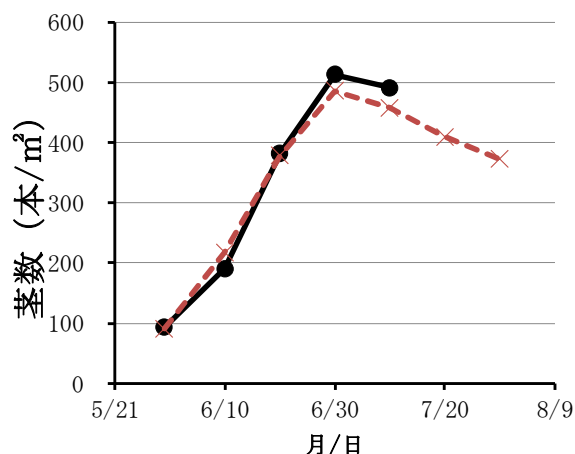
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	<b>72 cm</b>	65 cm	長い	110%
茎数	<b>491 本/m<sup>2</sup></b>	458 本/m <sup>2</sup>	やや多い	107%
葉数	<b>11.3 葉</b>	11.0 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	<b>35.9</b>	35.7	並	+0.2

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値 (田植え5月11日、栽植密度16.9株/m<sup>2</sup>)



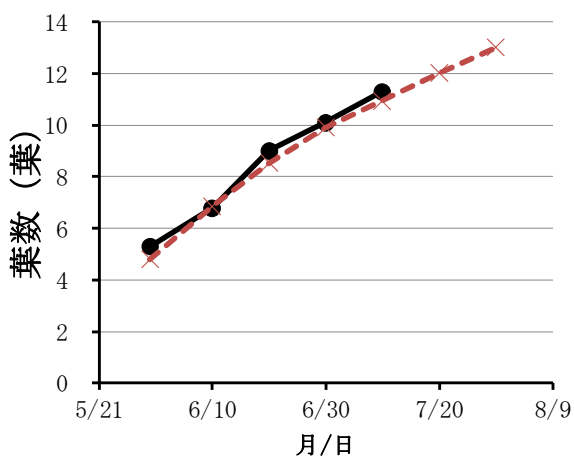
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



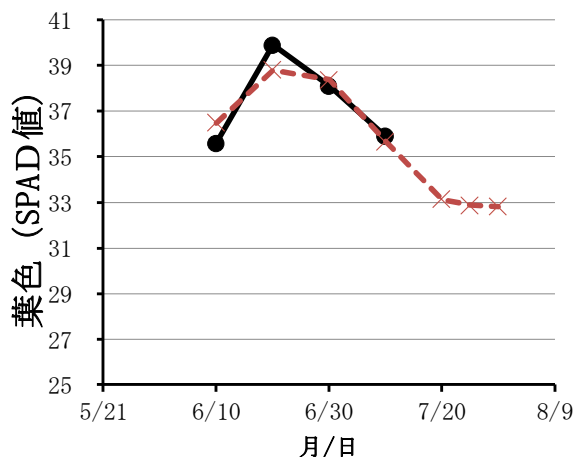
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



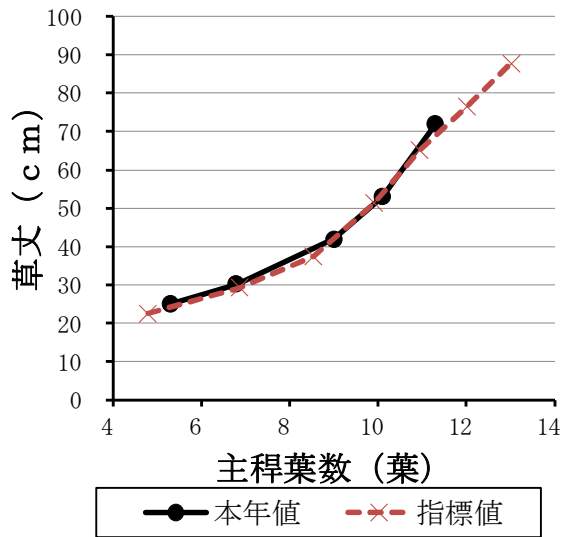
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

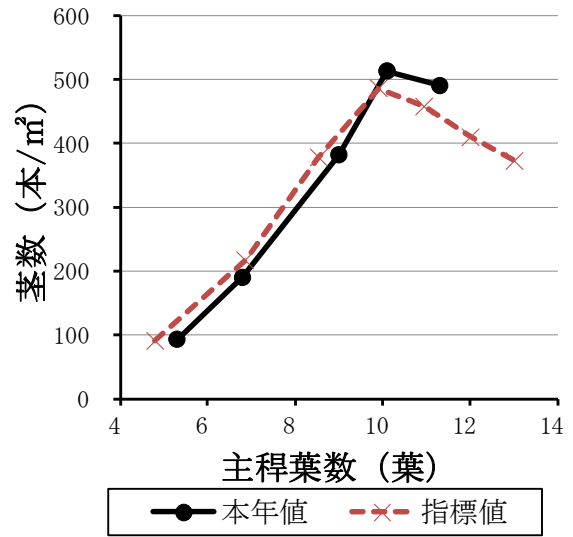


● 本年値    -x- 指標値

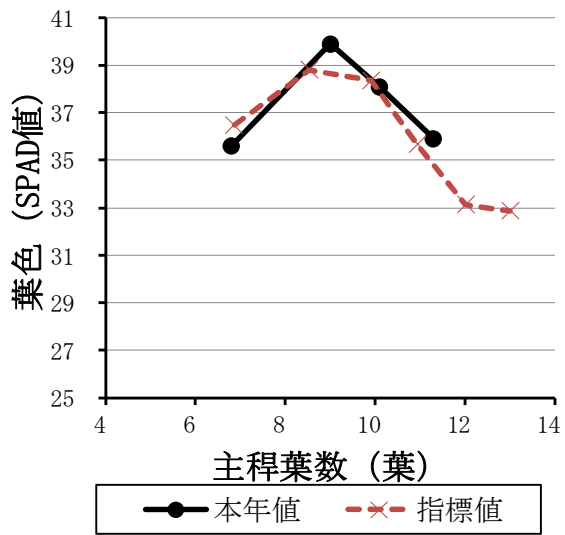
葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)



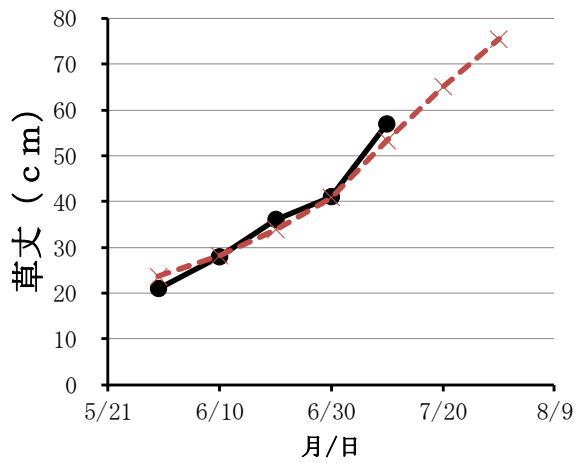
葉数と葉色  
(県全体)

## 新之助

○ 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数及び葉数の進み、葉色は「並」の状況です。

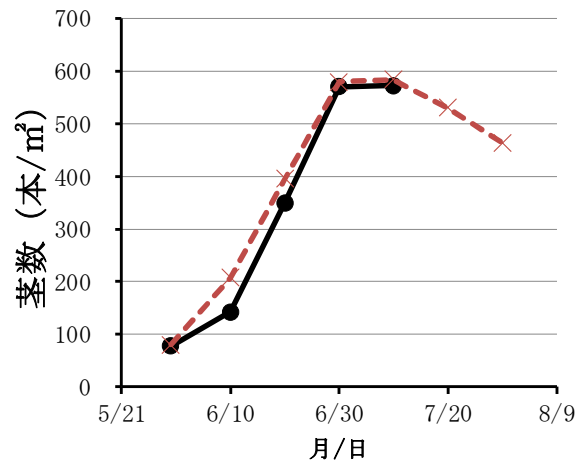
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	57 cm	53 cm	やや長い	107%
茎数	573 本/m <sup>2</sup>	584 本/m <sup>2</sup>	並	98%
葉数	11.2 葉	11.3 葉	並	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	36.6	35.9	並	+0.7

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月17日、栽植密度16.2株/m<sup>2</sup>)



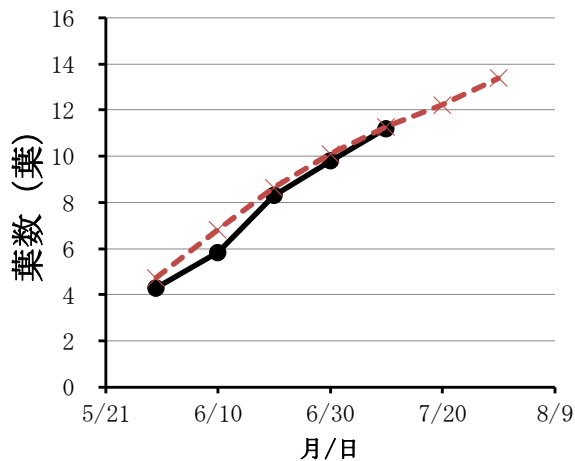
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



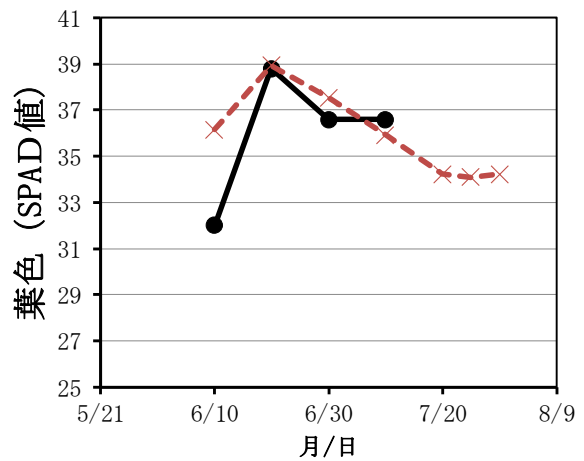
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)



● 本年値    -x- 指標値

葉色の推移  
(県全体)

## こしいぶき (参考)

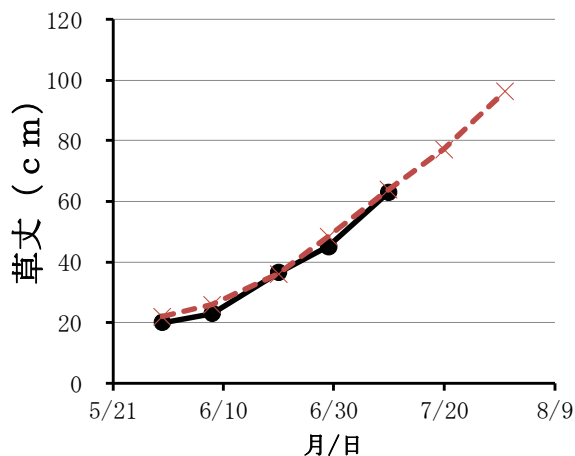
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「薄い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	63 cm	64 cm	並	98%
茎数	447 本/m <sup>2</sup>	548 本/m <sup>2</sup>	少ない	81%
葉数	11.5 葉	11.5 葉	並	±0.0 葉
葉色 (SPAD 値)	35.8	38.2	薄い	-2.4

注1) 化学肥料栽培 田植え5月10日、栽植密度21.7株/m<sup>2</sup>、幼穂形成期7月6日(平年差+1)

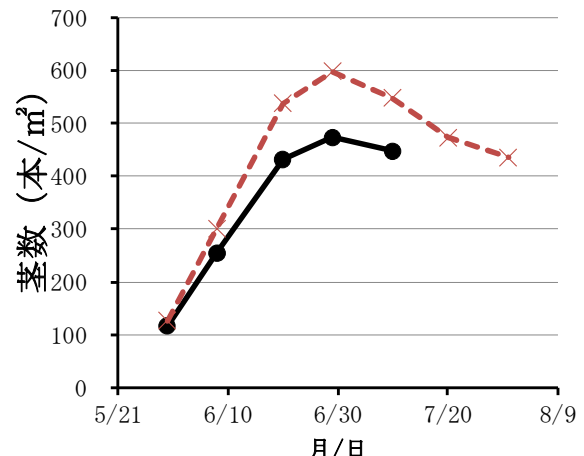
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量2.0kg/10a (1.0kg×2回分施: 1回目7月6日)

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



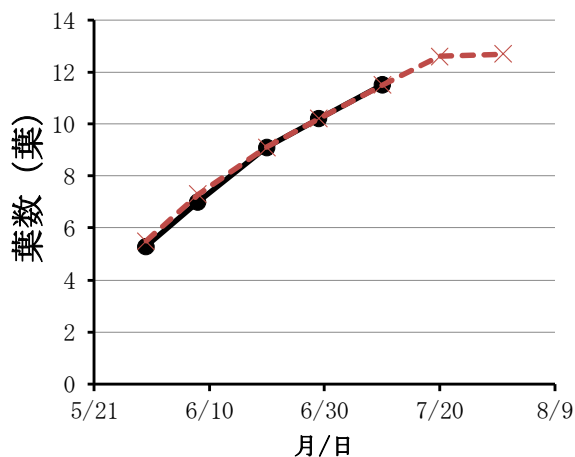
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移



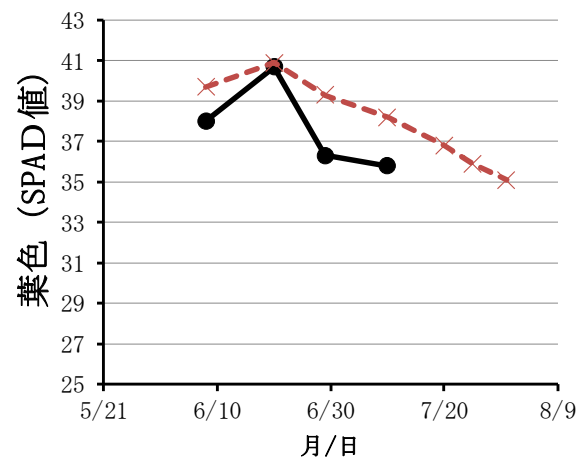
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移

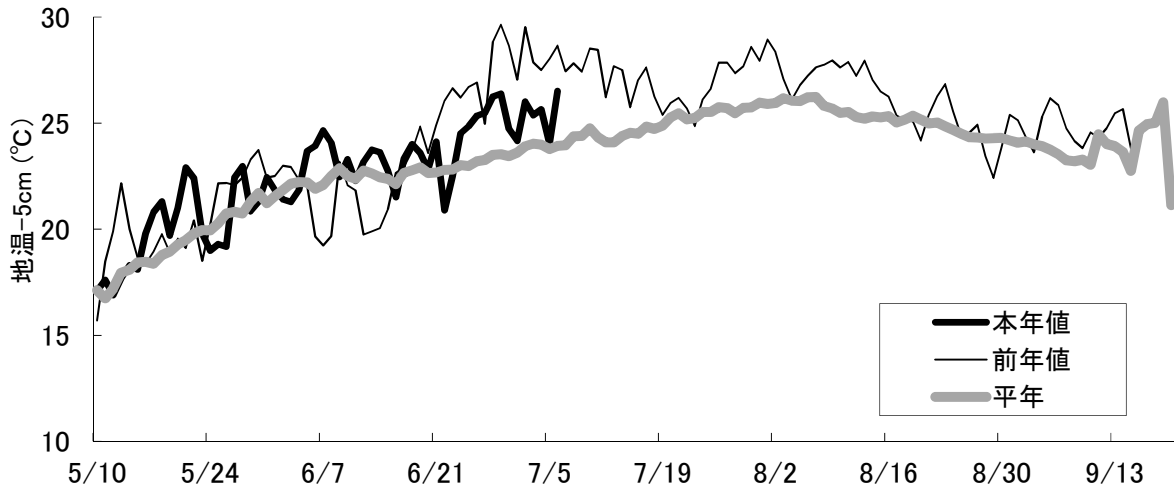


● 本年値    -x- 指標値

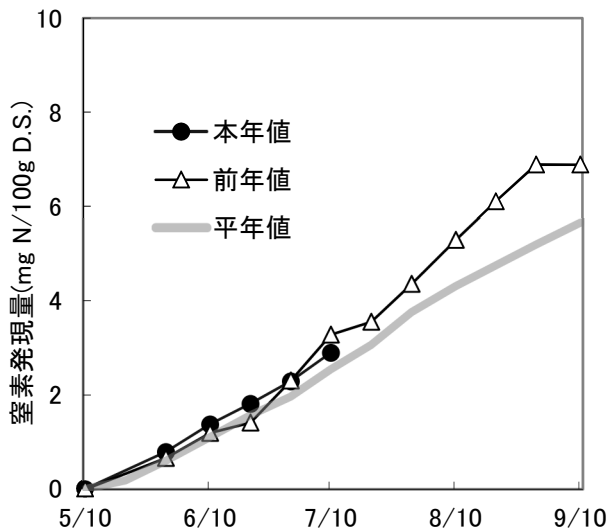
葉色の推移

## 2 ちりょく 地力窒素の発現状況

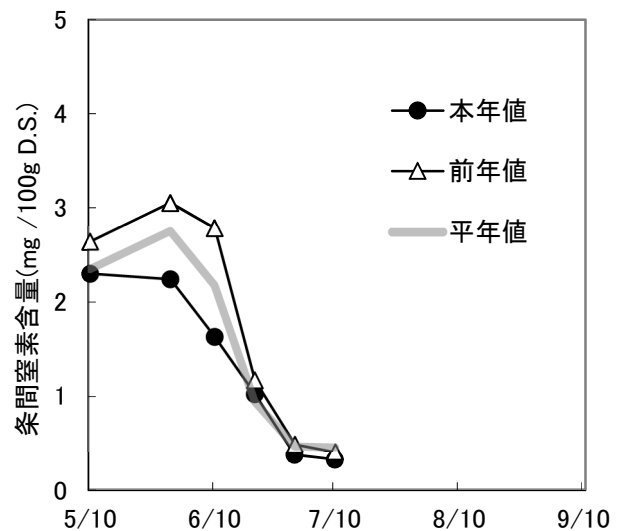
- 6/29 ~ 7/6 の期間中の日平均地温は平年差+1.6°Cで推移しました。7/7現在の地力窒素の発現量と条間窒素量は平年並で、土壤中に無機態窒素は残存していない状態でした。



水田地温（5cm深）の推移  
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）  
 （5月25日以前はセンサ異常のため、参考値として7.5cm深のデータを記載）



地力窒素発現量の推移（7月7日）  
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）  
 初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培  
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移（7月7日）  
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）  
 田植日：5月10日、化学肥料栽培  
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a